

OPINION オピニオン・スライス SLICE

同志社大学大学院ビジネス研究科長・教授

浜 矩子さん

弁護士よ、“鈍”キホーテたれ!!

—— 憲法改正論議が起こっています

絶対に変えるべきではない。権力から人権を守る観点から前面に出た、世界のお手本となるべき憲法です。時代とともに実態にそぐわなくなっていると言われますが、果たして改正によらなければ対応できないのか疑問です。96条のみ先行改正はまやかし。何をどう変えたいのかを言わず変えやすくだけするというのは、憲法論議とは別に、そもそも議論の手順としてめちゃくちゃです。

—— 憲法論議における弁護士・弁護士会の存在感は

弁護士が大所高所から真っ当な筋を

通すことを、机上の空論だ、ドン・キホーテ的だと批判されることにに対し、ドン・キホーテでいいじゃないかと開き直って、打って出られていないから存在感が薄い。損得勘定で話ができなければ今の時流に合わない、古色蒼然たるイメージになるとの恐れがあるのでしょうか。

—— もっとドン・キホーテ的であればと

弁護士は基本的にそういうものです。メリット・デメリット論で説得力を出そうとすること自体、戦わずして敗北している。まともな方向性を法律家として言えなければ、存在感が薄くなるのは当たり前です。

—— 真正面から立ち向かうのを怖がって、語るべき言葉を見出せていない?

一番分かっているはずの法曹が、政治家たちにこのテーマをいわばハイジャックされているのが非常に意外ですが、それは、きっと法曹界の人が誠実だからです。憲法論議が厄介なのは、まともに考える人ほどびびってしまうところ。戦争放棄と言いながら核の傘の下に生きている矛盾を解消するには、憲法改正が必要…単純なロジックです。矛盾は明らかだと素直に思う人は、自家撞着を来すので言いたくない、となり、その欺瞞を何とも思わない人たちに議論をハイジャックされる。だけど、その辺をうまく丸め込むのが皆さんの仕事です。

—— 法曹界の人間の思考回路と、ビジネス・経済学に携わる人の思考回路は違うところがありますか

同じ人間である以上、思考パターンは大きく違わない。ただ、今はグローバル競争に勝ち抜くという錦の御旗の下、「考える経営」ができにくくなって、経営やビジネスの世界は短絡的なノウハウ、安直なハウツー、軽薄な今日性に振り回され、価値判断が無い世界になってきている。

法曹界は、ある意味ではそういう世界とは非常に遠く、そこにギャップがある。しかし、このギャップの問題は、今日的なビジネス・経営の側にあるので、緻密な論理の追求や考え方が戻ってくる必要があるんじゃないか。だから、法曹界が歩み寄る必要はなく、自分らしさを取り戻すべきです。ドン・キホーテの「ドン」は、鈍くさいの「鈍」にも通じ、ペースは遅い。弁護士が、速いペースの中で出てくる結論が、法律的に正しい結論なのかをチェックするための“鈍くさいプロセス”を我々が担っている、そういう二人三脚だと、むしろ言うべきところですよ。

—— TPP 問題について



同志社大学寒梅館にて

TPPは、実際にはグローバルな自由貿易に反する保護主義的な流れで、極めて時代逆行的。グローバル経済全体にとっていい方向でないことは明らかです。

この話の厄介なところは、議論が自由貿易の推進に対する賛否にすり替わっている点。しかし、実際には、戦前の苦い教訓のもとにグローバル経済を推進したはずが、また（ブロック経済の）同じ轍を囲い込みでやろうとしている。TPPの唯一プラスな点は、日本の農業のグローバル化につながるころだが、それとこの大枠の話とは全く別問題。大枠をさておいて各論的な経済効果の話をしてしまうと、全く本質が見えなくなってしまう。

—— **FTA、TPP推進こそ反グローバル経済という見方もできると**

経済の世界でもそう言っている人は少ない。だからこそ怖いことです。

—— **司法へのアクセス障害について**

ポイントは、人権との関わりです。放っておくととても道が遠い人に対して、どれぐらい長くきめ細かく力強い手を差し伸べているか。また、皆さんが、いかに法律サービスが水や電気などと同じ社会的必需材であると、圧倒的な確信

を持って訴えられるかではないでしょうか。法曹人口の問題も、数を増やす前に、これまで、なぜそんなに少なかったかを解明する視点が足りなかったのでは。量より質の確保ということだったのなら、求めていた質とは何だったのか。数が少ないなら増やせばよいというのは、本質的な解答ではない。なぜ少ないか解答が出ていないのに、増やせと突っ走ると、別の問題が出てきたり、初期の問題解決に至らなかったりする。切り込み不足のまま、現象として現れている問題だけを乗り越えようとする弊害が色々なところに現れていそうです。

—— **弁護士会あるいは法曹界の現在の問題点、改善すべき点**

ミッション意識の欠如—「何のためにいるのか」について熱き確信がなくなっている。（スピードアップしろとか）安直にそんなことばかり言っていると、ある意味では法曹界の意識を低次元に引きずりおろしていく。それでは、高レベルのサービスを我々が得られる方向性とは逆なわけです。ミッション意識の高い者同士のぶつかり合い、コラボレーションの中からより高いレベルのものが出てくるわけで、もっと高みに上がれと叱咤すべきです。

—— **今の日本社会について、一番強く危機感を持っていらっしゃるの**

みんな安直、短絡、即物的というところに追いやられている。グローバル化が不安感、落ちつかなさなどを駆り立てるところがある。そういう人々の不安感につけ込んでくる保守反動勢力があるわけで、だから今はとても危うい状況だと思います。

—— **法曹界、弁護士に期待するところは**

司法は、民主主義の根源的な防波堤。もう一つは中央銀行です。この両方ともだめになると、とても恐ろしい。両方ともだめになって、逆に圧政の手先になってしまうおそれと、常に背中合わせです。だから、この両者がどのような精神性と姿勢を持って存在しているかが、常に我々市民にとって最大の関心事であるべき。

弁護士は、法のもとにおける平等、法に従った市民生活の安泰、それらの守り手として今こそ出番。人権を守るという意味合いでは、今や一朝有事です。久方ぶりの出番に腕が鳴るという感じがあつてしかるべき。だから、もっともっと面倒くさいことを言い、過激な議論を巻き起こしてください。檜舞台が待っています。

（Interviewer：水谷恭史、廣石佑志）
／Photo：水谷恭史

